

首都圏ミートパッカー輸出推進協議会、28年度も各国でセミナー



首都圏ミートパッカー輸出推進協議会(阿部昌史代表理事)が再任された。

総会の冒頭、阿部代表理事は「首都圏・関東の事業者を中心に日本産の優れた食肉を海外市場に輸出し、日本産食肉ブランドの認知度向上とブランドの確立を目的として協議会設立以来5年目を迎えた。昨期においても国の支援事業である輸出拡大サポート事業と前年度に発足された日本畜産物輸出促進協議会にも参画し、より有効な輸出支援事業に取り組んできた。28年度から輸出支援事業が、海外市場販路開拓活動と輸出環境設備を図る活動の2事業化支援体制となったが、引き続き当協議会からも積極的に提案や要請を実施するとともに、当会員の経験や知恵を活かした日本産食肉のプロモーションを計画して、日本産ブランドの価値を高め、会員のさらなる海外輸出を推進できる活動をしていきたい」とあいさつ。

同協議会では、27年度に協議会が主催となりタイ、ベトナムで開催したセミナーを通じて、アジアにおいて本物の日本産和牛の認知度の低さと、日本の食材を扱う技術者が乏しいという実感。28年度は会員のネットワークを活かし、フィリピン、タイ、ベトナムにおいて日本産食材の知識や扱い方とメニュー提案化に関するセミナーを実施する計画。和牛統一マークを使用し、海外のユーザーに本物の日本産和牛への認知向上と普及に引き続き努めていく。また、日本産和牛の輸出拡大のために、輸出環境設備においてはHACCPシステムによる工程管理をベースにSQFシステムやISO22000による食品の安全性と品質向上管理を行っていく。

農水省が7月19日に畜産環境シンポジウムを開催へ

農林水産省は、7月19日に同省7階講堂で「畜産環境シンポジウム堆肥で増産!」耕種農家のニーズに即した堆肥づくりとその流通」を開催する。耕種農家のニーズに即した堆肥づくりや堆肥流通の円滑化などの取組を推進するためのスタートアップとして開催するもの。